



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第49号

2022年2月3日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

西部中学校 長坂SP

2月3日、西部中学校でウィークリーSPとして活動している長坂SPに会いに行きました。長坂SPは、夏休みの「わくわく算数教室」を経て11月から西部中学校のウィークリーSPとして活動をしています。「3カ月SP活動をしてみて、どう？」と聞くと、「大分慣れてきました！今日は自分の専門教科の体育の授業にも入れていただき、とても勉強になりました。専門教科ではない教科でも支援できるように、勉強を続けています。西部中学校で活動するたびに“もっと勉強しなきゃ”と、身が引き締まります。」と笑顔で話してくれました。現場で活動することで、自分自身を見つめる機会にもなります。長坂SP、活動当初よりもグッと良い雰囲気になっていました。



私が長坂SPの活動を見た時は、数学の授業に入っていました。タブレットを活用して小テストを行っていました。現場でのICT活用がどんどん加速しているのを感じます。学生の皆さんは大学でたくさんICT教育について学んでいることでしょう。GIGAスクール構想の過渡期である現在、授業で使えるアプリケーションもどんどん開発されています。学生時代に、実際に現場でICTを活用した授業を見ておく、知っておくこともたいへんよい学びだと思います。加えて、現場で使われているデバイスやアプリケーションも時間がある時に実際に使ってみておくともよいと思います。（有名どころだと、ロイノートやスクラッチ、Googleのサービス（Form、Drive、スプレッドシートなど）でしょうか。）「授業中にタブレットが一つの文房具のように手軽に扱えることになるのが理想」とよく聞きますが、それを実現するには先生自身が使えるようになる必要があるでしょう。加えて、皆さんもよく分かっているように「ただ使えばよい」わけではありません。あくまでも、今までの学習方法との“ベストミックス”を目指していかなければならない、と文部科学省も説明しています。この通信を書いていて、「教師という仕事は、本当にたくさんのことを学び続けなければならないな」と感じています。やること盛りだくさん、勉強すること盛りだくさんですが、新しいチャレンジというものはワクワクしますね。先日、名城大学主催のMSATという授業フォーラムにオンラインで参加してきました。ちょうどテーマが「ICT」に関することでしたが、初めて知ることたくさんあってとても有意義な時間でした。東浦のSPさんは、学ぶ機会に対する情報収集の“アンテナ”は鋭いです。その鋭いアンテナを生かして、いろいろな学びの機会に積極的に参加をしていきましょう。

